

## プレスリリース

2012年11月18日(日) 15:00 pm ICT (カンボジア現地時間) まで公開禁止

「東南アジア経済は、中期的に底固い成長を堅持する見通しであるが、ASEAN 域内の開発格差の是正は、依然として大きな課題」、OECD 公表。

カンボジア、プノンペン 2012年11月18日 - OECD 開発センターが発表した『東南アジア経済アウトルックエコノミック・アウトルック: 中国とインドの経済見通しを含めて—2013年版』によると、ASEAN 10カ国の2013-2017年平均の実質 GDP 成長率は、経済危機前(2000-2007年)と同水準の5.5%を維持する見通しです。続けて、本アウトルックは「東南アジア諸国が持続的な成長を維持するためには、域内の社会・経済的格差の是正に向けた更なる取り組みが必要である」と指摘しています。

### 東南アジア、中国、インドの実質 GDP 成長率 (%) 予測

	2011	2000-2007	2013-2017
<b>ASEAN 6カ国</b>			
ブルネイ	2.2	-	2.4
インドネシア	6.5	5.1	6.4
マレーシア	5.1	5.5	5.1
フィリピン	3.9	4.9	5.5
シンガポール	4.9	6.4	3.1
タイ	0.1	5.1	5.1
<b>CLMV 各国</b>			
カンボジア	7.1	9.6	6.9
ラオス	8.0	6.8	7.4
ミャンマー	5.5	-	6.3
ベトナム	5.9	7.6	5.6
<b>ASEAN 10カ国平均</b>	4.6	5.5(*)	5.5
<b>CLMV 各国平均</b>	6.0	7.8(**)	5.9
<b>新興アジア地域 平均</b> (ASEAN 10カ国、中国、インド)	7.8	8.6(*)	7.4
<b>中国 および インド</b>			
中国	9.2	10.5	8.3
インド	6.8	7.1	6.4

出所：OECD 開発センター、MPF-2013； [\[Add statlink\]](#)

注：2012年11月1日現在 参考 [www.oecd.org/dev/asiapacific/mpf](http://www.oecd.org/dev/asiapacific/mpf).

\*)ブルネイ、ミャンマーを除く；\*\*)ミャンマーを除く

ASEAN 諸国、中国、インドを含めた新興アジア地域(Emerging Asia)の経済成長率が徐々に鈍化し始めるなか、ASEAN 経済は2017年に向けて、引き続き堅調に推移する見通しです。ユーロ圏をはじめとする世界経済の不確実性は懸念要因であるものの、ASEAN 域内への影響は限定的なものに収まるであろうとの見方を示しています。

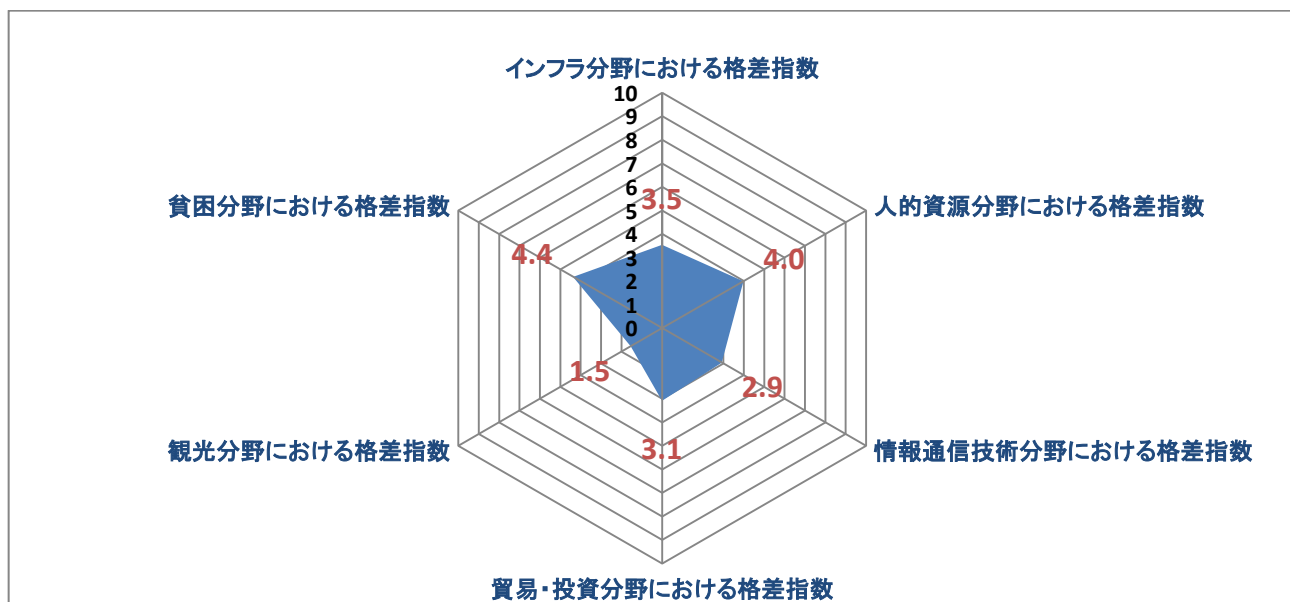
プノンペンで開かれた ASEAN ビジネス・投資サミットでの本アウトルックの発表にあたり、玉木林太郎 OECD 事務次長は「国内需要、特に個人消費および投資の伸びが今後の ASEAN 諸国の経済成長を牽引することとなろう。また、近年のアジア地域における中間所得層の増加も、内需拡大を支えるであろう。」との見方を示しました。

マリオ・ペッツィー・OECD 開発センター所長は、「東南アジア地域が経済成長を維持し、人々がその恩恵を受け取るためには、ASEAN 諸国における域内格差および国内格差の双方を縮小することが重要である。その意味で、構造政策の改革による生産性の向上が、ASEAN 諸国の新たな開発戦略の実施に向けた重要な要素となるだろう」と述べました。

ASEAN 諸国は、域内および国内における二重の格差問題を抱えています。ASEAN 主要 6 カ国（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ）の 2005-2011 年における一人当たり GDP の成長率は、CLMV 各国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）のそれよりも大きくなっています。本アウトLOOKは、開発の段階で生じる国内の格差に加え、ASEAN 域内における格差縮小の重要性を指摘しています。

「開発格差は所得格差だけによって、測られるものではなく、多角的な政策領域からの視点、例えばインフラ開発、観光、貿易・投資、情報通信技術（ICT）、人的資源、貧困などを加味して議論することは重要である。特に ASEAN 地域にとって、貧困と人的資源に関する分野の（ASEAN6 カ国と CLMV 諸国間の格差は大きく、格差是正に向けた更なる取り組みが必要である。」と田中兼介・OECD 開発センターアジア課長は指摘しています。

(ASEAN 6 カ国－CLMV 諸国間の)開発格差指数 (NDGIs)



出所：OECD 開発センター、ASEAN 事務局; [Add statlink](#)  
 注：各指数は 10 段階評価で、0（格差小）～10（格差大）

格差の改善状況は国によりまちまちです。CLMV 各国の中で、例えば、ベトナムは、ASEAN6 カ国とのキャッチアップに成功するなか、国内格差の是正も達成しています。カンボジアは、ASEAN6 カ国とのキャッチアップは、比較的遅いペースであるものの、国内の格差是正に成果をあげています。一方、ラオスは、対照的に、ASEAN6 カ国とのキャッチアップには成功しているものの、国内の格差は逆に拡大しています。

多くの ASEAN 諸国に共通する課題として、労働生産性の低さ、労働市場におけるミスマッチ、経済におけるインフォーマル・セクターの存在、高等教育へのアクセスの不公平等が指摘されています。開発により生じる格差を縮小させるためには、高い生産性かつ所得の増加をもたらす雇用創出が重要です。又、東南アジア諸国では、2015 年の ASEAN 経済共同体(AEC)創設に向け、国別の政策と ASEAN 全体で実施されるイニシアティブの間の政策整合性も重要になります。

東南アジア諸国を国別みると、開発格差の是正に改善が見られつつあるものの、貧困と人的資源の領域に関しては依然として大きな格差が残っています。政策当局は、貧困層に対する社会保護の枠組みや条件付き給付の支給など、次世代の人的資源開発につながる政策を拡充していく必要があります。

地域レベルでは、ASEAN 域内の成長を維持するために、域内の監視・対話を強めるとともに政策をさらに促進していく必要があります。国別の課題と ASEAN 地域全体で取り組むべき課題をうまく整理することに加え、地域間協力を促進する数々の取り組みや輸送インフラの整備、貿易・投資の自由化等、経済的統合を促進するための政策・枠組みは今後さらに重要となるでしょう。

**お問い合わせ先:**

各国共通: エロディ・マッソン

E-mail: [elodie.masson@oecd.org](mailto:elodie.masson@oecd.org)

電話: +33 (06) 26 74 04 03

**編集者向け注記:**

**『東南アジア・エコノミック・アウトルック: 中国とインドの経済見通しを含めて』**

『東南アジア・エコノミック・アウトルック: 中国とインドの経済見通しも含めて』は、OECD開発センターが公表する地域別の経済アウトルックで、アジアの経済成長、開発、地域統合に関して、OECDの見解を示したものです。東南アジア諸国連合(ASEAN)10カ国に焦点を当てるとともに、この地域の経済発展を十分に反映すべく、中国とインドに関連する経済問題も取り上げています。詳しくは [www.oecd.org/dev/asiapacific](http://www.oecd.org/dev/asiapacific) をご参照ください。

**OECD 開発センター**

開発センター ([www.oecd.org/dev](http://www.oecd.org/dev)) は、開発や貧困削減というグローバルな課題に対し、OECD諸国およびパートナー諸国の政策当局が革新的な対策を見出すことを支援しています。OECD加盟国とパートナー国の政府、企業、市民社会組織が関心を共有する問題についても非公式に議論する、OECDおよび国際社会の中でもユニークな機関です。